

これからの社会を創り出していく 子供たちの姿や思いに迫る

～今日的な教育課題に視点を当てて～

指定都市教育研究所連盟の共同研究とは？

全国20の指定都市の教育研究所・教育センターで構成される指定都市教育研究所連盟は、指定都市に住む子供の実態把握を通して、教育の今日的課題を解明し、学校・家庭・地域社会における教育の在り方について提言してきました。

昭和38年から基本的に3か年を1次として研究し、今回で19次となる共同研究です。

第19次共同研究では、令和元年度に20指定都市の小学校4年生、6年生、中学校2年生、約2万4000人を対象として実施した質問紙調査をもとに、経年変化にも着目し、成果と課題をまとめました。

①地域社会への関心を高めることは、子供が学校で学習する意義を理解することにつながります。

〈設問11〉あなたは、地域でおきていることや取り組んでいることに関心がありますか。

〈設問49〉あなたは、今、学校で学習していることが、今後の生活に役に立つと思いますか。

(%)

設問11 \ 設問49	役に立つと思う	どちらかといえば、役に立つと思う	どちらかといえば、役に立つと思わない	役に立つと思わない
ある	81.6 ↑	15.0 ↑	2.4	1.0
どちらかといえば、ある	63.4	31.0	4.5	1.2
どちらかといえば、ない	47.5	37.5	12.3	2.7
ない	40.3	30.5	16.6	12.7



地域でおきていることや取り組んでいることに関心が「ある」と回答した子供の96.6%が、学校で学習していることが、今後の生活にも「役に立つと思う」「どちらかといえば、役に立つと思う」と肯定的な回答をしています。学校と地域が連携を強め、地域社会への関心を高める機会や場をつくることは、子供が学校で学習する意義を理解することにつながります。

②学校以外での全ての学習によって自己有用感を育むことは、地域社会への関心を高めることにつながります。

〈設問11〉あなたは、地域でおきていることや取り組んでいることに関心がありますか。

〈設問25〉あなたは、学校以外での勉強や習いごとで学んだことが誰かの役に立ったと思う時がありますか。

(%)

設問25 \ 設問11	ある	どちらかといえば、ある	どちらかといえば、ない	ない
よくある	43.7 ↑	35.1 ↑	13.5	7.7
ときどきある	24.8	47.4	20.0	7.8
あまりない	16.2	43.5	29.0	11.4
まったくない	15.6	29.0	26.5	28.8
機会がないから、わからない	17.6	34.1	25.9	22.4

学校以外での全ての学習によって育まれる自己有用感が「よくある」と回答した子供の78.8%が、地域社会への関心が「ある」「どちらかといえば、ある」と肯定的な回答をしています。子供の自己有用感を高めるために、子供が学校外の人や場所から得た学びの有用性を実感できるよう、家庭や地域と連携して子供たちを支援していくことが大切です。



③子供の自己有用感を高めることが、学校生活の楽しさにつながります。

<設問26>あなたは、学校生活が楽しいですか。

<設問37>あなたは、学校生活の中で、誰かの役に立ったと思うときがありますか。

(%)

設問37 \ 設問26	楽しい	どちらかといえば、 楽しい	どちらかといえば、 楽しくない	楽しくない
よくある	79.2	16.6	3.0	1.1
ときどきある	61.1	32.1	5.2	1.7
あまりない	42.0	41.4	12.3	4.2
まったくない	26.4	33.1	19.4	21.1



誰かの役に立ったと思うときに「よくある」と回答した子供の95.8%が、学校生活が「楽しい」「どちらかといえば、楽しい」と肯定的な回答をしています。子供が人の役に立つ喜びを感じることができるよう、まわりの人のために自分の力を発揮するなどの機会をつくるのが、子供の学校生活の楽しさにつながります。

④教師が、授業で対話的な学びを生み出す工夫をすると、子供の考えが深まります。

<設問41>あなたの学級では、みんなの発言や発表などを、先生が取り上げながら進める授業をしていますか。

<設問44>あなたは、学校の授業で新たな考えをもったり、考えが深まったりしたことがありますか。

(%)

設問44 \ 設問41	している	どちらかといえば、 している	どちらかといえば、 していない	していない
よくある	75.4	20.2	3.4	1.0
ときどきある	48.5	42.9	7.3	1.4
あまりない	33.2	45.6	16.8	4.4
まったくない	27.1	34.0	16.7	22.2



授業で考えが深まったことが「よくある」と回答した子供の95.6%が、教師が子供の発言を取り上げながら授業を「している」「どちらかといえば、している」と回答しています。対話的な学びを生み出す教師の工夫が、子供の考えを深めます。

調査結果は次のように活用できます！

<学校では>

- 校内研修の資料として
- 学校説明会や保護者会等での提供資料として
- 独自のアンケート調査を実施する際に、調査項目の作成や結果分析の参考資料として

<家庭では>

- PTAの研修会等における生活習慣・学習習慣に関する話題として

<地域では>

- 市民講座や講演、自治会、老人クラブ等、市民からの要請に基づく、出前講座等の資料として



全国20指定都市の指定都市教育研究所連盟

札幌市教育センター、仙台市教育センター、さいたま市立教育研究所、千葉市教育センター、川崎市総合教育センター、横浜市教育センター、相模原市教育センター、新潟市立総合教育センター、静岡市教育センター、浜松市教育センター、名古屋市教育センター、京都市総合教育センター、大阪市教育センター、堺市教育センター、神戸市総合教育センター、岡山市教育研究研修センター、広島市教育センター、北九州市立教育センター、福岡市教育センター、熊本市教育センター

詳細につきましては、各指定都市教育研究所（教育研究所・教育センター）にお問い合わせください。